

—令和3年度保健師職能集会報告—

開催日時 令和4年3月26日(土) 10:00～

場所 滋賀県看護協会及びWEB

集会テーマ

「保健師の健康戦略を考える 地域とともに歩む「平和堂」の経営に学ぼう」

講師 (株)平和堂共創事業部 部長 橋本 光正氏
「地域密着のライフスタイル総合(創造)企業」の実現に向けて」



【講演内容】

- 平和堂には、「100年企業に向けて地域密着のライフスタイル総合(創造)企業を目指す」という経営理念があるため、100年企業にするために何が必要かを常に考えながら経営をしている。
- 社会環境として市場規模の縮小・人手不足・少子高齢化があるが、健康寿命を延ばし、健康な高齢者が増えることで、地域活動が活発になり、人が動き、地域が活性化すると捉えている。
- 地域力の向上は必須であり、買い物難民(を無くすこと)などにより、地域が自立して生活基盤を守れる環境を作り出すことを目指している。
- 「地域の健康」は「地域密着ライフスタイル総合(創造)企業」を実現するための基盤であり、平和堂の持続的成長のカギを握っている。
- 物を売るだけでなく、地域の生活者全般に目を向け、新しい事業を創出する際にはどう健康に繋がっているかを考えている。
- 福井県武生は高齢者が多い町であり、地域サロンをオープンした。地域サロンでは、足湯、体操、健康マージャン、健康チェックを実施している。サロンには4名のコンシェルジュを配置し、人と人とを繋ぐ役割や困りごとの解決をしている。駅に近い立地のため、電車待ちの高校生と高齢者が卓球を一緒に行うなど、新たな交流が生まれ、生活が豊かになるきっかけづくりになっている。

サロン参加者は平和堂に通う機会が増え、ついでに買い物もしてもらえるので互いにとってウィンウィンになっている。

- ・ 平和堂ホームサポートサービスでは配達だけでなく、補助金を受けながら移動スーパーを実施している。利益がでる事業ではないが移動スーパーを待っている人もおり、信頼関係ができるとそれらの方から困りごとを聞くことができ、地域の課題を知ることができる。

グループワークで出た感想

☆地域の企業と一緒に健康なまちを目指す取組ができたら。

- ・ 武生のように企業と共同で事業を実施し、健康なまちづくりを目指したい。
- ・ 平和堂の総菜が店舗によって様々。総菜をどんな年齢層の方が多く買っているのか、どんな総菜を買っているかを共同で分析し、施策に活かしたい。
- ・ 人手不足、少子高齢化など、企業が危機感を持って取組をされていることがわかった。行政としても取り組みにあたっての覚悟が必要と感じた。（企業は生き残り、行政は？）
- ・ 経験から、企業とのコラボでは企業側に利益が出ないこともあるので、後でもめないようにしっかりと擦り合わせる事が重要。（それぞれの役割、目標等）
- ・ 消費動向のデータを分析するなどのデータ分析から課題を考えることは、保健師の活動と通じることがあり、高齢者のサロンや健康増進なども一緒にしていきたい。

—新型コロナウイルス感染症への取り組みレポート—

I 市町保健師の保健所への応援業務レポート

☆保健師の役割の大きさを知った



新型コロナウイルス感染症の第6波をむかえ、令和4年1月ごろは、滋賀県では毎日1,000人近い感染者を認めていました。保健所業務は逼迫し、市町村保健師もその業務を担うために出務することとなりました。

私たち彦根市の保健師は、彦根保健所で自宅療養者の健康観察、自宅療養の解除連絡を行いました。感染して身体的にも精神的にも苦痛が増大する自宅療養中に電話で話すことはとても大きな役割を果たしていると感じました。自宅療養者は、不安や疑問、心配等いろいろな思いを抱えておられます。

本来は丁寧な対応を求められる業務ではありますが、日々感染者が増加する状況ではそれをしては業務が終わりません。保健所の方々はいろんな思いを抱えながら、業務にあたられているのだと感じました。

短時間ではありますが、平時ではない状況下で業務に携わり、保健師がやるべきこと、この状況から優先すべきこと等いろいろ考える機会となりました。一日も早く、新型コロナウイルス感染症が終息することを願っています。

（文責 彦根市 吉野）



II 市町保健師の応援を受けた保健所保健師のレポート

【レポートその1】

☆自宅療養者に安心を届けることができた

高島保健所では、1月17日から2月18日まで、市の保健師さんに応援にきていただきました。

1月17日から19日までは午前、午後2人ずつ、20日からは、午前、午後1人ずつ、土日も1人ずつ応援いただきました。

1月17日から1月19日は、陽性者の調査や濃厚接触者への検査の連絡と検査結果の電話連絡などを行っていただき、1月19日から看護師さん2名と一緒に自宅療養者の健康観察のメールやハーシス（HER-SYS 新型コロナウイルス情報把握・管理支援システム）の入力、電話での健康状態の聞き取りをお願いしました。

自宅療養者全員に電話連絡をするので、1日50人くらいの人の健康観察になり、療養者の質問や疑問に答えたり、症状から薬の希望の聞きとりなど行っていただきました。日頃から地域の状況をよく知って住民支援されているので、たくさんの方の健康観察をお願いすることができました。自宅療養終了の方から毎日の電話で安心した、心強かった等のメッセージをいただいています。

半日単位で来ていただくので、自宅療養者の健康観察の手順やQ&Aの作成を行うとともに市の保健師さんの中でも引継ぎをしていただいていた業務を行なってもらいました。

（文責 高島保健所 高木）

【レポートその2】

☆市でQA集作成。応援保健師の心構えを感じた

市の業務もお忙しい中、毎日支援いただきありがとうございます。

甲賀保健所においても、市保健師の方に自宅療養者の健康観察を支援いただきました。2月に入り多くの方が自宅療養されている中、症状の聞き取りだけでなく、子育てや介護にかかること等、生活の困りごとについても相談されることがあり、日頃から地域の支援をされている市保健師の方がいてくださることを心強く感じています。療養を終了した方からもパルスオキシメーター返却の時に「丁寧に対応いただき安心して療養ができました」「不安いっぱいの中電話くださり心強かったです」などのお手紙をいただいています。

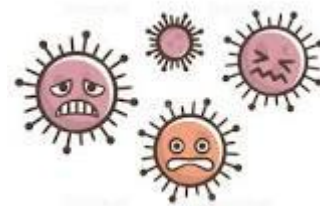
また保健所へ応援いただく際、市の中でQ&A集を作成するなど、保健所への配慮をして下さり大変感謝するとともに、応援保健師として心構えをしてくださっているのを感じ、保健師だからこそ大変嬉しく思っています。ありがとうございます。

（文責 甲賀保健所 西村）

—新型コロナウイルスワクチン接種事業レポート 長浜市—

☆忙しかったけど、貴重な体験だった

新型コロナウイルス感染症対策にとってワクチン接種は、国難を解決するための公衆衛生上の大事業です。令和3年4月にワクチン接種推進室の室長になり、えらいことになったと思いました。早々の4月1日から庁議説明、議会説明、プレス対応、医師会・病院との協議、ワクチン配送、集団接種の企画立案、広報資料の作成と超多忙となりました。こんなに忙しかったことは市役所に就業依頼初めてのことでした。



ワクチン接種はすべて国が指揮を執りますが、やはり具体的な接種になると市町村によって体制が異なりますので、ここでは長浜市の状況をお伝えします。

接種開始は、配分されるワクチン量が少なかったため、接種順位1番の高齢者の内、クラスターを防ぐために入所施設の高齢者から行いました。一般の高齢者の集団接種予約がスタートする時には、他市の事例からコールセンターのパンクが予測されたので、WEB予約を中心に据えて、高齢者家族に向けてWEB予約の支援をお願いしました。また市職員によるWEB予約サポート日も設けました。このころは、接種を委託している開業医院も電話が鳴りやまなかったのではないかと思います。驚いたことに一軒の苦情も入りませんでした。また、高齢者の接種期間に、保育園や幼稚園の職員を接種キャンセルによる余剰ワクチンの接種対象とし、園でのクラスターの可能性を減らす工夫をしました。後にキャンセル待ち予約センターを設けました。

途中から職域接種や県の広域接種もスタートしましたので、市民の接種を早く進めるために、他力本願ではありましたが、高齢者以外の若年層に対しては職域接種や県の広域接種を積極的に勧めました。

一番困ったことは、国の方針等が短いスパンで変わっていくことです。国の動向に注意を払い、大臣談話やニュースを読み、早めに手を打つようにしましたが、それでも市の全戸に対する月1回の自治会発送という情報発信方法では、国の変化のスピードに追い付きません。ホームページやプレスリリースを情報発信の主軸に置かざるを得ない状況のため、情報弱者である高齢者、外国人、しょうがい者等に対しては、担当課や民生委員等に協力を仰ぎ、通訳者を雇用しました。

10月ごろに追加接種（3回目接種）実施が決まりましたが、初回接種（1・2回目接種）の経験を活かしながら計画を立てることができました。オミクロン株の特徴として感染力が強いということがあったので、集団接種の従事者にできるだけ早くワクチンを打って、従事者不足により接種事業がストップしないように備えました。



追加接種では武田/モデルナ製ワクチンの供給割合が予定より増えたり、2月から1・2回目接種の小児用ワクチンが導入されるようになったりと状況は絶えず変化していますが、なんとか接種にこぎつけています。

事業の実施において様々な面で未熟な点も多かったと思いますが、それでも所属する健康福祉部各課をはじめとする市役所全体、議会、医師会、病院、報道機関までが応援してくださいました。地震や台風とはタイプが違いますが、新興感染症という災害に際して、市民はどう考えるのか、議会はどうか、市としてどう動くのか、を具体的に知ることができました。本当に貴重で得難い体験をさせていただいたと思っています。

（文責 長浜市 明石）

報告Ⅰ 一保健師職能委員会審議一

☆「保健師のお仕事」を作成しました

保健師職能委員会で保健師のお仕事を説明するリーフレットを作成しました。日本看護協会や滋賀県が作成されたパンフレットやリーフレットも参考にしました。デザインはスタイリッシュとまではいきませんが、看護師さんからの転向組や高校生、一般の方にも理解していただけるよ

うに、専門用語を使わず、具体的な仕事内容を記載しています。就職説明や勧誘等にお使ください。今回の保健師職能委員会だよりに添付しています。（審議事項「自治体保健師の確保定着に関すること」から）

報告Ⅱ 一会議出席一



全国保健師職能委員長会

【第1回】WEB会議

令和3年7月5日（月）10:00～13:00

報告事項 2021年度活動方針、2021年度関連事業報告、令和2年度複雑かつ多重課題解決に向けた事例検討会の手引き（暫定版）の評価事業報告、令和2年度地域包括ケアの実現を支える保健医療福祉連携システムの構築事業報告

グループ討議

テーマ「地域で生活習慣病重症化予防に係る医療機関等看護職との連携の在り方について」

内容 全国6地区に分かれて討議後報告。重症化予防における地域の保健活動が医療機関や看護職に十分伝わっていない、看護職間の連携が少ない、産業分野との連携が必要との課題が出された。

3職能合同で重症化予防に関する研修会・事例検討会の開催、看護職間の連携事例が報告された。

【第2回】WEB会議

令和4年3月3日（木）10:00～13:00

報告事項 2021年度活動報告、2022年度活動方針

講演 「多様で複雑な健康課題に対応するこれからの保健師とは」

講師 日本看護協会副会長 井伊久美子

グループ討議

テーマ「求められる保健師像の実現に向けた人材確保・育成の取り組みについて」

内容 全国6地区に分かれて討議後報告。採用年の偏りによる新人を育成する側に支障が出ている、大学の教育と現場の隔たりが大きい、コロナ禍で地域に出ることが減っており体験できない、集合型研修ができない等の問題が出された。

大学に人材育成を委託する、横のつながりを作るために交流会を持つ、キャリアラダーチェックと面談をセットにして実施等の全国で行われている対応策が紹介された。

体の原理を理解する1冊

『 育児の生理学 医学から説く科学的育児論 』

瀬江千史著 現代社



先日受講した保健指導の研修会で講師の先生から、育児相談に役立つという本の紹介がありました。

この本は、ごくありふれた「育児相談」に答える形の新聞掲載をまとめたものですが、単に答えを伝えるだけでなく、〇〇とは・・・と、必ず一般論をふまえて解説されています。これを繰り返すことで応用できる考え方（育児感）を築いていってほしいという小児科医であり医学の体系化をめざす著者の思いが込められています。

この本を読み、体の原理が整理され、個別性・多様性を理解するためには、基本となる一般性や生理学の理解が大切であると改めて感じました。また、これは育児に関するだけでなく、特定保健指導における「住民に身体メカニズムを理解してもらう」ことにも通じることだと思います。

学生時代のテキストでした！という人もいるようです。読んだことがない人はぜひ読んでみてください。

(長浜市 安居)

発行：公益社団法人 滋賀県看護協会（保健師職能委員会）
Tel：077-564-6468